マルチメディア社会への期待と東芝の戦略

Expectations on the Advancing Multimedia Society and Toshiba's Strategies

江川　英晴
Hideharu Egawa

次世代情報通信システムを総称した“マルチメディア”の世界は，これを支える基礎技術の進歩とともにその実像が徐々に明らかになってきた。しかし，技術的に幾多の実現の可能性がある中で，社会のニーズに合致し，定着するものはその一部でしかなかろう。このマルチメディアの流れを見定めてこれに乗るのでなく，独自の技術，新鮮な発想と，市場ニーズの洞察によって，新しい提案を社会に提示し，マルチメディア社会を切り開く一員として，われわれは社会に貢献したいと願っている。

エレクトロニクス全般の推進役である半導体技術，これによって支えられる画像圧縮・伸張技術，各種通信技術，光ディスク，磁気ディスクなどの記憶技術，コンピュータ，AV関連技術，ディスプレイ技術などマルチメディア推進に必要な基礎技術はほぼ全体を社内に保有しており，われわれにとってやや不得手なソフトウェア技術，サービス，情報コンテンツなどを社外との協力で確保できれば，“マルチメディア社会を切り開く”というわれわれの願望は十分実現可能なものになると信じている。

1994年7月にわれわれはマルチメディア事業推進の組織Advanced-I事業本部(注)を発足させ，すでに進行していたマルチメディア関連計画の促進と同時に，新たな計画の策定，推進をスタートさせた。この組織には全社から豊かな発想と実行力，指導力を兼ね備えた技術者，マーケティングの専門家などを糾合し，計画の発想段階からこれを内部で十分討議，熟成させ，社内外の意見も入れながら実行計画として固め，開発の実行は関係部門が協力するという方式を取り入れている。開発から実用化までに必要な資金は当社の全売上げの約0.5％をプールし，これに充当している。

今回このわれわれの活動の一端を本誌に紹介する。DVD(デジタル バーサタイル ディスク)，スマートテレビシステムなどに関してはわれわれの独自の提案が世間に受け入れられ，われわれの主導で新しい流れを作ることができたと信じている。DVDに関して付言すれば，これは単に映画などの鑑賞用にとどまらず，コンピュータの端末としての高速，高容量の情報記憶，ゲーム，教育，ビデオショッピングなどのインタラクティブな用途など応用範囲は大変広く，共通フォーマットでこれら全体をつなぐマルチメディアの重要な要素の一つとして今後大きな発展が期待できる。スマートテレビシステムはテレビと電話回線を機能的に接続することにより，テレビにインタラクティブな機能を与えるものである。より本格的なビデオ オン デマンドに対しても実用化を容易にするいくつかの提案を準備している。PCネットワーク，移動通信を活用した個人用情報端末の分野では，さらに大きな未来が待ち受けている。

マルチメディアの進展により，ビジネスの分野では，社内だけでなく，顧客，ベンダをまたがった，距離と時間差を感じさせない質の高い情報の共有化が進み，また家庭生活でも，必要な情報，楽しみたい娯楽番組，ビデオショッピング，各種手配，決済などが希望の時間に行えるようになろう。いずれの場合でも，ここち良い情報へのアクセス，利用者の情報洪水からの保護，情報機密，プライバシーの確保が大前提で，われわれの技術を傾注しなければならないところでもある。

われわれの計画すべてが成功を収めることはあり得ない。計画が世の中の動きに対して先行したものであればあるほどリスクも大きいと思う。それでも計画のいくつかが世の中に受け入れられ，世の中のシステムを変えることになり，ビジネスとしてのリターンが得られれば本望である。そのようなかたちで，今後もマルチメディア関連の仕事を進めていきたい。

(注) 1984年に進展する情報社会に対応した社内計画として「I作戦」をスタートした。コンピュータ事業とシステム制御事業の統合，ノートブック型携帯用PCの世界に先駆けた事業化などを行い，また，マルチメディアの世界を想定したタイムワーナーへの投資，事業協力もスタートした。
この計画をさらに進展させ，マルチメディアの世界を先取りすべく1994年にAdvanced-I事業本部が設立された。

代表取締役副社長　Senior Executive Vice President and Director